

令和元年度後期開始

令和元年度磐城高等学校の後期が、本日開始します。
もう一度確認いたします。

決して時間を通過させるのではなく、一日一日を積み上げていく。

一瞬一瞬を大切に深く掘り下げて物事を考える。

構造的に物事を把握する。論理的な判断力を醸成し、コミュニケーション能力を高め、表現する手立てを積み上げる。

人とともに、いかに社会システムを維持することができるかコミットメントする。

さらには、時間的空間的な戦略を持ち、目標に向かって突き進むべき戦術を駆使することができる力を持っているかを考える。

謙虚な心と正しい言葉遣いを心得るか、本をきちんと読んでいるかが常に問い続ける。

あと半年になりました。長いようで本当に短い2年間であります。校長として戻ってみると、学校現場は、大きく変容しておりました。何が一番変容していたかという、進学指導における戦略と戦術の現状認識が、時代の大きなうねりの中で、とても驚くほどの変容ぶりでした。もう少し違った意味で、準備を重ねてくるのであったと反省しています。

GTECの無料での受験機会の確保や、電子黒板、タブレットの準備等、さらには採用要件や人事要件の緩和等による教員集団の育成への見通し、などなど手に着けることのできた部分と、中高一貫教育の実践等を含め今後手に付けなければならないはずの部分の準備不足が露呈した月日であります。

しかし、前向きに考え、現勢力の下支えと、学習量の確保の見通しや、カリキュラム改革など、できることはやりましたので、あと半年、それをもっと具現化するように努力いたします。

これで、ゴールドと甲子園と花園と国立競技場が具現化できることがあれば、何も後悔は致しません。

次の時代がやってくるでしょう。老兵は死なず、ただ去り行くのみとして、静かにバトンを渡すつもりです。

浪人生諸君。3年生諸君。校長は朗報を待っている。

私は、君たちの頑張りを心から信じているぞ。磐城魂は永遠なのだから。